

平成 30 年(2018 年) 2 月那覇市議会定例会

代表質問発言通告書(1 日目)

平成 30 年 2 月 19 日(月)

割当時間(答弁を除く) { ニ ラ イ 55 分
日本共産党 45 分

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
1	下地 敏男 (ニ ラ イ)	1 名護市長選挙について	<p>去る 2 月 4 日、名護市長選挙が行われ稲嶺進氏の残念な結果に終わった。再編推進事業補助金にとらわれない財政を築いた実績と市長就任後の 8 年間の市政運営は高く評価された。子ども達の未来に基地はいらない。基地は百害あってさらに百害である。選挙の争点は辺野古新基地建設の是非を問い、新基地建設を強権で押し進める政府に屈することなく、沖縄差別を許さない闘いであった</p> <p>開票後、敗北を認めたインタビューで見せた稲嶺氏の悲痛な表情がすべてを語る。辺野古新基地建設反対を公約に掲げた翁長知事は「それでも民意は生きている」とコメントしている</p> <p>選挙結果は受け止めるが新基地建設を名護市民が認めたわけではない。美しい辺野古の海を自ら提供することもない</p> <p>3 年前の市長選挙で辺野古新基地建設反対の姿勢を示し、圧倒的な 10 万票を超える得票で当選を果たした城間市長の見解を伺う</p>
		2 車いすマラソン大会について	<p>県内外の身体障がい者が集い、大会を通して、絆と理解を深める。さらに身体障がい者スポーツの振興を図り、併せて希望と勇気をもって積極的に社会参加する意欲を高める。そうした中で多くの身体障がい者が大会に期待している。車いすマラソンを本市で開催する意義について市長の見解を伺う</p>
		3 道路行政について	<p>道路は産業・経済の多様化、生活圏の広域化によりその重要性は増加する一方である。市道、県道、国道の維持管理はどのようになっているか伺う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
		<p>4 水産行政について</p> <p>5 地域の活性化について</p>	<p>施政方針に『魅力的な「うみ業」のまち』の実現に向かうとある。水産業振興発展は本市の食文化を一層豊かにするものであり、泊漁港はその拠点になっている。現状、課題、利点及び発展性について伺う</p> <p>那覇市頑張るマチグラー支援基金条例の一部を改正する条例が今定例会に提案されている 全市域の商店街を対象とする改正になっている。提案の経緯と期待される効果について伺う</p>
			<p>【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長</p>

代表質問（1日目） 平成30年2月19日(月)

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
2	永山 盛太郎 (ニライ)	<p>1 子育て政策について</p> <p>2 小学校環境整備事業について</p> <p>3 学校給食について</p>	<p>(1) 小学校入学準備金支給事業とはどのような事業なのか</p> <p>(2) 対象者への周知、告知等はいつ、どのように行うのか</p> <p>(1) 市内小中学校 53 校で洋式トイレが 1 器も設置されていない学校は何校あるのか</p> <p>(2) 小中学校のトイレ洋式化率はいくらか</p> <p>(3) 全校洋式化トイレ導入に向けどのような取り組みを行うのか</p> <p>(4) 校舎外に設置されているトイレの洋式化はどのようになっているか</p> <p>(1) 給食調理施設の衛生管理について伺う</p> <p>① 調理施設の衛生管理点検等はどのように実施されているか</p> <p>② 昨年度 1 年間での異物混入事例は発生しているか</p> <p>③ 異物混入防止対策はどのように実施されているのか</p> <p>④ 昨年度 1 年間でアレルギー事例は発生しているか</p> <p>⑤ アレルギー対策はどのように実施されているのか</p> <p>⑥ 昨年度の県産食材使用実績を問う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
		4 生涯学習について	<p>(2) 教職員の安全対策について伺う</p> <p>① 異物混入、アレルギー等への対応手順研修はどのように行われているのか</p> <p>② 学級担任不在時の申し合せは問題ないか</p> <p>生き生き人材育成支援施設整備事業について伺う</p> <p>(1) どのような施設になるのか伺う</p> <p>(2) 進捗状況について伺う</p>
			<p>【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長</p>

代表質問（1日目） 平成30年2月19日(月)

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
3	上原 快佐 (ニライ)	<p>1 第一牧志公設市場再整備事業について</p> <p>2 民泊条例について</p> <p>3 子ども行政について</p> <p>4 平成30年度那覇市一般会計予算について</p>	<p>(1) 現在の進捗及び課題について伺う</p> <p>(2) 次年度以降の事業展開を伺う</p> <p>(1) 本市の現状と課題について伺う</p> <p>(2) 条例制定について伺う</p> <p>那覇市子ども子育て支援事業計画の中間見直しについて</p> <p>(1) 那覇市子ども子育て支援事業計画の中間見直しのこれまでの取り組み状況について伺う</p> <p>(2) 中間見直し後の計画の概要を伺う</p> <p>(1) 小禄支所建設整備事業について</p> <p>① 地域への説明及び合意形成について伺う</p> <p>② 今後の事業スケジュールについて伺う</p> <p>(2) 子育て世代包括支援センター運営事業について</p> <p>① 事業概要について伺う</p> <p>② 保健所等との情報共有及び市民への周知について伺う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
			<p>(3) 給付型奨学金事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業の特徴について伺う ② 県内他市町村の状況について伺う <p>(4) 民間資金調達促進マッチング事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業概要について伺う ② 審査基準及びターゲットについて伺う <p>(5) 沖縄 IT 産業戦略センター(仮称)設立支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 沖縄 IT 産業戦略センター(仮称)の概要について伺う ② 那覇市 IT 創造館との相乗効果について伺う <p>(6) 地域未来投資事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業概要について伺う ② 具体的にどのような産業及び企業を想定しているか伺う
			<p>【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長</p>

代表質問（1日目） 平成30年2月19日(月)

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
4	清水 磨男 (ニライ)	<p>1 骨髄ドナーについて</p> <p>2 新文化芸術発信拠点施設事業について</p>	<p>(1) 患者と適合者のミスマッチ解消のための助成制度導入について</p> <p>(2) 若者を中心とした新規骨髄移植ドナーを増やすための普及啓発活動について</p> <p>(3) 献血センターでのドナー登録を促すための働きかけについて</p> <p>(4) 臍帯血の安定的保有量の確保について</p> <p>(5) 患者に寄り添う家族への経済的負担軽減について</p> <p>(1) これまでの経緯と、今後のスケジュールを伺う</p> <p>(2) 完成までと完成後の予算の概要を伺う</p> <p>(3) 現在の市民会館の敷地など、計画を変更した際の問題点などを伺う</p> <p>(4) 民意の確認と反映の状況について伺う</p> <p>【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長</p>

代表質問（1日目） 平成30年2月19日(月)

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
5	古堅 茂治 (日本共産党)	<p>1 施政方針・予算編成について</p> <p>2 第5次那覇市総合計画について</p> <p>3 名護市長選挙の結果について</p>	<p>(1) 「平和・子ども・未来—ひとつながり—」をキャッチフレーズに掲げ、情熱と覚悟を持って、市民の目線、女性の感性で、風格ある県都・那覇市に、新しく優しいあたたかな施策をきめ細かく展開してきた城間市政の4年目、公約の達成状況と2018年度施政方針に込めた市長の決意を伺う</p> <p>(2) 2018年度予算編成の特徴を問う</p> <p>城間市政下で策定した本市の最上位計画・第5次那覇市総合計画(2018年度～27年度の10年間)が2018年度からスタートする。未来への夢が広がる第5次那覇市総合計画に込めた市長の決意を伺う</p> <p>名護市長選挙は、辺野古移設推進の自民党、辺野古移設反対の公明党、衆院1区で自民党と対立した維新から推され、「辺野古の『へ』の字も言わない」戦術を徹底し、公開討論会も拒否し続け、正々堂々と論戦もせず争点隠しを行い、企業・団体締め付けなど組織戦に終始した渡具知候補が当選した。投票所でのマスコミの出口調査では、地元両紙調査で約65%、NHK調査で約75%が辺野古新基地建設に反対している。名護市民が新基地を受け入れてないのは明白。市長の見解を伺う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
		4 米軍基地問題について	<p>(1) 沖縄県内各地で発生している米軍機の事故・不時着問題に関連した日本共産党志位委員長の衆院代表質問に松本文明内閣府副大臣が、「それで何人死んだのか」とやじを飛ばし、「普天間基地を辺野古に移せば安心」と明言した。「事故はあっても死者が出なければ良い」と言うに等しい、名護市民と県民の命を軽んじる許しがたい暴言である。市長の見解を伺う</p> <p>(2) 米海兵隊トップのネラー総司令官が、沖縄で相次ぐ米軍ヘリコプターの不時着について「予防着陸で良かったと思っている。負傷者もなく、機体を失うこともなかった」と述べ、米国防総省のマッケンジー統合参謀本部中將も「予防着陸」であり「特に心配していない」と述べ、さらに、在日米軍は、日本との相互防衛のために駐留しており「その責任を果たすために、訓練の継続が必要であり、沖縄の人々の不安を高めたとしても、同盟国を支えるために訓練は続けなければならない」とも述べた。これらは、県民の命と安全を脅かしても「日米同盟」のためなら仕方ないと開き直る重大発言である。安倍政権はこれらの発言に抗議一つしていない。これらの背景には、日本の主権を踏みにじる米軍の占領者意識と、辺野古への新基地建設に象徴されるように沖縄に対し無法と強権を振るう安倍政権の屈辱的な対米追従の姿勢がある。市長の見解を問う</p> <p>(3) 基地被害解消へ、国内法の適用を除外するなど、米軍に特権を与え、優遇している日米地位協定の抜本的改定と米軍基地の整理縮小・撤去が求められている。市長の見解を問う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
		5 那覇港湾行政等について	<p>(1) 那覇港の港湾計画の概要、沖縄アジア経済戦略構想計画等での位置付けについて問う</p> <p>(2) 那覇港へのクルーズ船寄港状況と今年の寄港予定について問う</p> <p>(3) 那覇港の中心に那覇軍港を移設する浦添市案は、港湾計画、沖縄アジア経済戦略構想・計画等に反し、那覇港と県経済の発展に大きな障害となる。見解を問う</p> <p>(4) 沖縄アジア経済戦略構想・計画等でうたわれている国際力のある物流拠点形成づくりに必要不可欠な那覇軍港の早期返還、跡地利用計画策定に向けての取り組みについて問う</p>
		6 経済振興について	<p>城間市政が新たに二丁目1番地に位置付けた経済振興策。2018年度予算での経済振興策の特徴を問う</p>
		7 観光振興について	<p>(1) 翁長県政と城間市政の下で、沖縄県の2017年の入城観光客数が過去最高を更新しハワイを超えた。見解と課題について問う</p> <p>(2) 本市観光関連予算の状況について問う</p> <p>(3) 新規・中心市街地公衆トイレ設置について問う</p> <p>(4) 新規・観光危機管理計画策定について問う</p> <p>(5) 外国人観光客受入の取り組みについて問う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
			<p>(6) 旅館業法では、対面での受付、宿泊名簿の整備、消防法の構造基準などさまざまな規制があり、無許可での宿泊営業は禁止されている 本市における違法民泊の実態・課題を問う</p> <p>(7) 2018年6月施行の民泊新法・「住宅宿泊事業法」は、これまで自治体の許可を必要とした宿泊営業の規制を緩和し、「届出」だけで営業を可能とする。地域住民が迷惑や不安を感じ、住みづらくなるようなことはあってはならない。市民生活を守るために市独自の規制が必要である。取り組みについて問う</p> <p>(8) 「のうれんプラザ」の観光への波及効果と観光バス乗降場設置の取り組み、同地区再開発事業の今後の展開を問う</p> <p>(9) 子どもたちに夢と希望を与え、経済効果の大きいジャイアンツキャンプとスポーツキャンプ等の取り組みについて問う</p>
		8 情報通信関連産業について	<p>(1) 翁長県政と城間市政の下で伸びが著しい情報通信関連産業の状況について問う</p> <p>(2) 新規・沖縄IT産業戦略センター（仮称）設立支援事業について問う</p>
		9 都市計画行政・住みよい街づくりについて	<p>(1) 長期的な視点に立った都市の将来像を明確にし、その実現に向けての道筋を明らかにするための都市計画マスタープラン改定について問う</p> <p>(2) 立地適正化計画策定について問う</p> <p>(3) 大きな課題となっている空家等対策の取り組みについて問う</p> <p>(4) 都市みらい部、まちなみ共創部への再編設置について問う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
		<p>10 交通行政について</p> <p>11 新文化芸術発信拠点施設事業について</p>	<p>(1) 全国一ひどい交通渋滞の要因と緩和策・課題について問う</p> <p>(2) 「沖縄鉄軌道計画検討委員会」(委員長・森地茂東京大名誉教授)は、7つの経路案のうちから「推奨ルート」を絞り込んだ。「C派生案」と呼ばれる推奨ルートは那覇市から浦添市、宜野湾市、北谷町、沖縄市、うるま市、恩納村を經由して名護市に至る。見解と取り組みについて問う</p> <p>(3) 基幹バス導入、バス路線網の整備の取り組みについて問う</p> <p>年間約14万人余の利用者があった現市民会館は、耐震診断結果や建物の老朽化の状況を踏まえ、利用者の安全確保のために、やむを得ず2016年10月から休館となり、多くの方々に大きな不便をかけている。新市民会館の早期完成は、32万那覇市民だけでなく、文化・芸術・教育・福祉関係者など、多くの県民の切実な要望ともなっている</p> <p>2012年度から進められてきた新文化芸術発信拠点施設整備事業・新市民会館建設は、旧久茂地小学校校舎の解体も終え、今年度3月末までに実施設計を取りまとめ、来年度建設に着手、3年後に完成する予定となっている。この段階で那覇青年会議所から陳情が提出されている。当局の見解と今後の取り組みを問う</p> <p>【答弁を求める者】 市長、副市長、関係部長</p>

代表質問（1日目） 平成30年2月19日(月)

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
6	湧川 朝涉 (日本共産党)	1 那覇市子ども・子育て支援事業計画について	<p>施政方針・予算方針について</p> <p>(1) 中間見直しを行う目的と概要について問う</p> <p>(2) 保育・教育(待機児童)について、見解と対応を問う</p> <p>① 保育定員の推移について</p> <p>② 認可保育園などの推移について</p> <p>③ 認定こども園の特徴と推移について</p> <p>④ 保育士確保のための具体的な取り組みについて</p> <p>⑤ 保育所待機児童の解消に関連する中間見直しの具体的内容について</p> <p>(3) 放課後児童クラブについて、見解と対応を問う</p> <p>① 放課後児童クラブの推移について</p> <p>② 受入れ児童の推移について</p> <p>③ 放課後児童クラブ利用料軽減事業の目的と効果について</p> <p>④ 新規・放課後児童支援員等の処遇改善等事業について</p> <p>⑤ 放課後児童クラブ活動拠点整備について</p> <p>⑥ 中間見直しの具体的内容について</p> <p>(4) 病児保育事業の増設の取り組みと効果について問う</p> <p>(5) 新規・利用者支援事業「子育て世代包括支援センター」の概要について問う</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
		<p>2 介護保険について</p> <p>3 教育行政について</p> <p>4 生活保護行政について</p>	<p>(1) 介護保険制度と保険料について、問う</p> <p>(2) 第7次なは高齢者プランの概要について問う</p> <p>(3) 地域包括支援センターの18カ所への増設の概要について</p> <p>(4) 第7期の施設と地域密着型サービスの整備計画について</p> <p>(1) 新規・那覇市給付型奨学金制度の概要と効果について</p> <p>(2) 新規・小学校入学準備金支給事業の概要と効果について</p> <p>(3) 新規・小学校トイレ整備事業の概要について</p> <p>(4) 新規・小学校遊具改修事業の概要について</p> <p>(5) 学校施設建て替え・耐震化事業の概要について</p> <p>生活保護は、憲法第25条に明記された国民の生存権を保障する、最後のセーフティーネットである</p> <p>今、国会において、日本共産党は、生活保護削減方針を撤回し、2013年の削減前の水準に戻すことを強く要求</p> <p>今回の削減予算は160億円。「思いやり予算」など米軍経費の来年度の増加分195億円をあてれば「おつり」がくる</p> <p>安倍政権は、今でも不十分な生活保護の生活扶助基準(光熱水費や食費など)を最大5%削減する。7割近くの生活保護利用世帯で引き下げが強行される</p>

順位	氏名 (会派名)	発言事項	発言要旨
		<p>5 国保行政について</p> <p>6 子ども医療費の無料化について</p> <p>7 新規・骨髄移植ドナー支援事業について</p>	<p>(1) 生活保護削減計画と那覇市への影響について、問う</p> <p>(2) 那覇市として、いわゆる水際作戦があってはならない。見解を問う</p> <p>国保の構造的な欠陥と、沖縄県のみ不利な制度である前期高齢者財政調整制度による全県的な不利益は莫大な金額になっている</p> <p>(1) 全県と那覇市の赤字解消のための、2017年度までの一般会計からの繰り入れた、累計額について問う</p> <p>(2) 市民の命と健康を守るために、県単位化後も、法定外繰り入れをして、値上げはすべきではない。見解を問う</p> <p>こども医療費助成事業の概要と効果について、問う</p> <p>支援事業の概要と効果について、説明を求める</p> <p>【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長</p>